

平成21年7月中国・九州北部 豪雨の経験から

平成28年12月22日

長野県防災総合アドバイザー
西出 則武

平成21年7月中国・九州北部豪雨

山口県防府市

梅雨前線による集中豪雨により、
山口県防府市で同時多発的に
大規模な土砂災害が発生



土砂災害警戒情報発表から 数時間後の悲劇

- * 土砂災害警戒情報発表時でも災害発生率は数%
- * 土砂災害警戒情報が発表されても避難に結びつかないのはこのせい？

- * 発表は07時40分 災害発生は昼頃
- * 他地域の住民からの電話対応に忙殺されていた？
- * 情報の真偽を確認するため現場に行く？
- * → 川が氾濫していて現場に近づけなかった？
- * → それなら、なぜ防災行動を促さなかったのか？

悲劇を繰り返さないために

* 災害発生確率の低さ

→ 大雨の予想が外れたのではなく、**破壊現象予測の限界**であると認識すべき

→ 他の判断材料を求めて確度を上げたくなるのもわからないではないが、**間に合わなければ零点**と認識すべき

* 電話対応

→ 防災担当者は**首長の判断をサポートするのが重要な役割**と認識すべき

→ **ボトルネック**とならないよう上位機関のサポートが必要

対策本部へ予報官派遣

- * 連日の雨で、県管理のダムの貯水率が98%に
 - * このまま、大雨が続くとあふれる危険
 - * 放水量を増やすと、下流で洪水の危険
-
- * 今後の雨の見通しについて、予報官が直接県に説明する必要があると判断

なぜ対策本部への派遣を躊躇した？

- 豪雨時には、気象台も県も超多忙だが、・・・
- 予報官の派遣を打診すると、断られた？
- 先方は、当方が説明する場を作れないからと遠慮？
- 当方は、多忙な先方に迷惑ではないかと遠慮？
- 人手が足りない？（← ある地方気象台長の意見）
- 本当か？
- 無意識のうちに行かない理由を探したり、作っていないか。

躊躇しないために

- ▶ 断られて「ほっとしている」自分がいないかチェック！
- ▶ 事前の合意が有効。
- ▶ 人手不足なら上位機関から応援すればよい。
- ▶ 行く必要があるのなら「だから行かない」という結論ではなく、「どうすれば、それを解決できるか」を考えるべき。
 - この時は、「情報収集だけ」と言って県担当者の了解
 - 行ってみると、すぐ知事室に案内されて直接説明！